

Si-R370 V35.10 変更内容一覧

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V34.00～V35.09	MACアドレスチェック機能を有効にしたDHCPサーバ機能使用時、AAA情報に設定したIPアドレスが配布されない。
2	V32.00～V35.09	MACアドレスチェック機能を有効にしたDHCPリレーエージェント機能使用時、許可端末からのIPアドレス要求を受信時に装置が再起動することがある。
3	V32.00～V35.09	MACアドレスチェック機能を有効にしたDHCPサーバ機能使用時、AAA認証が繰り返し行われると装置が無応答となることがある。
4	V32.00～V35.09	MACアドレスチェック機能を有効にしたDHCPリレーエージェント機能使用時、不許可端末からの要求拒否を示すシスログが出力されない場合がある。
5	V21.00～V35.09	PIM-SMでのマルチキャスト通信時に経路作成されず通信できない場合がある。
6	V35.00～V35.09	IKEv2構成でIKE SAのRekeyに失敗した場合、装置が再起動する場合がある。
7	V35.00～V35.09	IKEv2(自側アドレス不定構成)使用時、IKEネゴシエーションに失敗しVPN通信できないことがある。
8	V35.00～V35.09	IKEv2構成でDPD機能が有効の場合、対向装置と通信可能な状態にも関わらずDPDダウンが発生する場合がある。
9	V35.00～V35.09	IKE_AUTH交換メッセージの受信処理でエラーとなった場合にメモリーリークが発生する場合がある。
10	V33.02～V35.09	相手側のトンネルエンドポイントアドレスが不定なIPsec/IKE構成にて接続先監視機能を併用した場合に、IPsec/IKE SAの削除と確立が繰り返され通信できなくなる。
11	V32.00～V35.09	ポリシールーティング機能使用時に、定義不備や動的定義変更実施等により無効な転送先へのパケット中継が発生すると装置が再起動することがある。
12	V35.00～V35.09	IPsec/IKEv2接続において、DPDダウン検出後に長時間通信できなくなる場合がある。
13	V35.00～V35.09	IPsec/IKEv2接続時、SA更新が行なわれると対向機側で接続先監視エラーが発生することがある。
14	V21.00～V35.09	装置アドレスとして不適切なアドレスを設定した場合に、動的定義反映にて正しいアドレスに修正しても以降の通信ができなくなる。
15	V21.00～V35.09	パケット契機での再発呼(リダイヤル)抑止が機能しないことがある。
16	V30.00～V35.09	経路情報関連コマンドでのUpTime表示が不正な時間値になる場合がある。